

1 単元名 **くらべて よんで “なるほど なっとく”**

2 単元について

本単元は、説明文「どうぶつの赤ちゃん」(光村図書1年下)を読むことを起点に、他者(学習者、筆者、文章)と対話することを通して、自分自身の見方・考え方を広げていくことをめざした学習である。説明文「どうぶつの赤ちゃん」は、ライオンとしまうまの赤ちゃんの様子が対比的に書かれた文章である。「できる」「できない」や「強い」「弱い」のような対の表現があり、比較や対比などの思考を働かせながら読むことに適した学習材である。読むことに対して意欲的な本学級の子どもたちは、視点に沿って比べるという読みを楽しみながら、動物の赤ちゃんに対する知識を広げようとするであろう。しかしながら、ことばや情報を整理するだけでは、筆者が文章を通して伝えようとするものの本質を捉えることはできない。「このことばは、どういう意味なのだろう」「なぜ、このことばを使ったのだろう」「くらべて読むことで見えてくることは、何だろう」など、ことばに立ち止まり、気付きや問いをもとに、他者と対話をしながら、自分自身の見方・考え方を広げていこうとする読みが必要である。こうした読むことの構えを“なるほど なっとく”とし、子どもたちと共有することとした。筆者の考えが内包されたことばや表現に立ち止まり、“なるほど なっとく”をめぐりて自分なりに追究していく読みこそ、読むことのおもしろさであろう。そのためには、ことばと自分の既有知識や経験と結び付けて、そのことばが意味するところを推測しようしたり、そのことばに内包された筆者の見方・考え方を捉えようとするのが重要である。この学びの姿は、国語部が提起する「感度」「理解」「拡充」と重なる。説明的文章を読むことにおいて、小学校1年生の子どもたちがどのようなことばに立ち止まり、自分の身体や感覚に働きかけながら、「理解」「拡充」を図っていくのか、その過程において、他者との関わりはどのように構成されるのか、また、こうした学びを促進するために、教師はどのように支援していくのか、そうしたことを考えながら、子どもたちとともに、単元を進めていきたい。

3 学習指導計画(7時間目/全9時間)

- 第1次 学習材と出会い、学習課題「どうぶつの赤ちゃんすごいぞ図鑑をつくろう」を立ち上げる…1時間
- 第2次・説明文「どうぶつの赤ちゃん」を読む……………6時間
 - ・しまうまの赤ちゃんの事例を読み、“なるほど なっとく”をまとめる…本時5/9時間
- 第3次 自分が調べた動物の赤ちゃんについて、「すごいぞ図鑑」にまとめる……………2時間

4 本時の学習について

(1) 本時のねらい

- ・しまうまの赤ちゃんの事例を読み、自分なりの感想をまとめる。

(2) 予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留意点
1 本時のめあてを確認する。 (仮)しまうまの赤ちゃんの事例を読み、“なるほど なっとく”をまとめよう 2 しまうまの赤ちゃんの教材文を音読し、読み取ったことをワークシートにまとめる。 3 読み取ったことをファミリーで共有する。 4 しまうまの赤ちゃんの事例を読んだ感想をまとめ、発表する。 5 学習のまとめをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに情報を整理する際には、→や□囲み、色分けをするように声かけをする。 ・経験や自分の考えとことばや表現、筆者の考えを結び付けようとする発言に注目する。 ・発表はサークルの形で行い、自由な聴き合いの時間を確保するようにする。

□授業後の話し合いで話題にしたいこと

小学校1年生の子どもたちは、どのように、筆者のことばや表現と出会い、対話を通して、「理解」「拡充」を図っていくのか。